

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科

家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科 目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組

教科担当者：（1組：内堀）

使用教科書：（ 教育図書 『Survive!! 高等学校 家庭基礎 』 ）

教科 家庭 の目標：

- 【知識及び技能】 生活の営みにかかわる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参加しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践的な態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 2章 衣生活 【知識及び技能】 ・被服は、気候・風土によって異なる一方、人生という長い時間軸で見ると、ライフステージによっても違ってくることを理解する。自分の身のまわりの布がどのような繊維でつくられているかに関心を持つようにする。エプロン製作を通して、よりよい衣生活の実践に役立てられる態度を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・近年の消費行動の多様化・個性化が多量の死蔵品を生む要因となっていることを理解し、消費のあり方を考える。 ・中古衣料のリユースやリフォームの工夫をする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・衣生活の面からできる、環境に負荷を与えない行動を考え、実践する。	・指導事項 1 人の一生と被服 2 被服材料と管理 3 エプロン製作 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・プリントの記入状況・作品・考査		○	○	8
	B 1章 消費生活・環境 【知識及び技能】生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】自立した生活を営むために、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることへの理解を深める 【学びに向かう力、人間性等】自分の目指すライフスタイルを実現するために、職業選択などの具体的な事例を取り上げたりして考察し、生活設計を工夫する。	指導事項 1 年齢の引き下げ 2 契約と消費者トラブル 3 消費者の権利と責任 4 生活費と家計 将来の経済計画 5 これからの消費生活 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・プリントの記入状況・考査		○	○	4
	C 6章 高齢期の生活 【知識及び技能】・生涯を見通して高齢期を捉えることができるようになる。 【思考力・判断力・表現力 等】・長くなった人生を、可能な限り充実させるには何が必要か、自分たちはどう老いていきたいかを考える。 【学びに向かう力・人間性等】・高齢期の人たちにとっての、地域での生活の大切さを理解する。	・指導事項 1 超高齢化社会を生きる 2 人生のなかで高齢期をとらえる 3 充実した高齢期へ ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・プリントの記入状況・考査		○	○	14
	定期考査			○	○		1

2 学 期	D 3章 食生活 【知識及び技術】 ・日常の食生活を振り返り、健康や生活習慣に直結する食事について学ぶ意欲を高める。 ・現代の食生活の実情を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。 ・家族や仲間といっしょに食べることのメリットを理解し、食事を大切にすることができる。 ・無駄のない食材の使用や、環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。 【思考力・判断力・表現力等】 ・ライフステージに合わせた食事計画を立て、1日3食のバランスがとれた形でつくれるようにする。 【学びに向かう力・人間性等】 ・栄養・嗜好・味わい・予算・調理時間などを考えて合理的に献立が作成できるようにする。	指導事項 1 人の一生と食事 2 栄養と食品 3 食生活の安全のために 4 食生活をデザインする 教材 一人一台の端末活用 等	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・プリントの記入状況・考查	○	○	○	18
	E 5章 子どもの保育 【知識及び技能】・乳幼児期は、その発達段階に応じた親の働きかけが重要であることを親の保育態度と関連付けて理解できるようにする。 【思考力・判断力・表現力 等】 ・社会的自立のためには、子どもの発達に応じて基本的生活習慣や社会的な規範を身に付けさせることが親や家族の重要な役割であることを理解できるようにする。 【学びに向かう力・人間性等】 ・社会環境の変化による人間関係の希薄化、自然とふれ合う経験の不足、育児不安や孤立感、保育所不足と待機児童の問題などを取り上げ、子育て支援の必要性について理解できるようにする。	指導事項 1 子どもの発達 2 子どもの生活 3 子育て支援と福祉 教材 一人一台の端末活用 等	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・プリントの記入状況・考查	○	○	○	4
	定期考查			○	○		1
3 学 期	F 住生活 【知識及び技能】・住居内で使用される化学物質による空気汚染などの実態について知り、健康と住環境について関心を持ち、安心して住めるよりよい住環境について考える。 【思考力・判断力・表現力】さまざまな生活条件を持った人びとが、安心して住めるよりよい住環境について考える。 【学びに向かう力・人間性等】・住生活基本計画ではどのような住まいがめざされているかについて、関心を持つ。	指導事項 1 人の一生と住まい 2 住生活の計画と選択 教材 一人一台の端末活用 等	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・プリントの記入状況・考查	○	○	○	10
	G 8章 青年期・家族 生活設計 【知識及び技能】生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解する。 【思考力・判断力・表現力等】自立した生活を営むために、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることへの理解を深める 【学びに向かう力・人間性等】自分の目指すライフスタイルを実現するために、職業選択などの具体的な事例を取り上げたりして考察し、生活設計を工夫する。	指導事項 1 青年期を生きる 現代の家族 2 家庭生活の成り立ち 3 生活設計 教材 一人一台の端末活用 等	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・プリントの記入状況・考查	○	○	○	9
	定期考查			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 家庭科 科目 家庭演習
 教 科： 家庭科 科 目： 家庭演習 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 3 学年 1 組
 教科担当者： （1 組：内堀）
 使用教科書： （ ）
 教科 家庭科 の目標：

【知識及び技能】	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識、技能を習得することができる。
【思考力、判断力、表現力等】	多方面の食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。
【学びに向かう力、人間性等】	食の役割に関心を持ち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身に付けようとする。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食事の意義と役割について、理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として、栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識、技能を習得することができる。	自分自身の食生活や食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。	人々の健康増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまで総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他と協働してとりくむことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れられていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを把握させる。	からだのしくみと食べ物 栄養素の役割	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・提出物の記入状況	○	○	○	2
	調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかせる。なんのために調理をするのかを理解させる。 段階的に調理技術の向上をはからせる。 おいしさに関わる条件を知り、調理にいかせるようにする。 だし、味覚効果、料理の触感や温度、素材の持ち味などおいしさに関わる要素を理解し、調理にいかせる。 計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具ごとの特徴などについて、具体的な知識と技術を身につけさせる。 調味に関する基本的な知識を習得させる。	献立作成 日常食の献立作成条件 日常食の献立作成の手順 テーマ設定と調理実習 調理とおいしさ 調理の目的 食べ物のおいしさ	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・提出物の記入状況	○	○	○	24
	栄養士の方からの視点での食生活の考え方を学び、実際に調理してみる。	一人暮らしの食生活をつくる	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・提出物の記入状況	○	○	○	4
	「食事摂取基準」の考え方を理解する。 食事計画にあたっては、「食品群別摂取量のめやす」をり利用できるようにする。 各自及び家族の生活について、健康増進のための食生活の視点から理解する。	食事摂取基準と食事計画 日本人の食事摂取基準 食事計画 ライフステージと栄養計画	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・提出物の記入状況	○	○	○	8
2 学 期	調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかせる。 基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。	献立作成 日常食の献立作成条件 日常食の献立作成の手順 和風献立・洋風献立・中国風献立 テーマ設定と調理実習	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・提出物の記入状況	○	○	○	12
	日本料理、西洋料理、中国料理等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について理解させる。	料理様式と献立 日本料理の様式と献立 西洋料理の様式と献立 中国料理の様式と献立	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・提出物の記入状況	○	○	○	12
	調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかせる。 基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。	献立作成 日常食の献立作成条件 日常食の献立作成の手順 供応食・行事食 テーマ設定と調理実習	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・提出物の記入状況	○	○	○	6
3 学 期	食育基本法の内容について、理解させる。 食育が生活にどのようにかかわっているかを考えさせる。 現在行われている食育について、調べさせる。	食育の意義と推進活動 食育の意義と課題 食育推進活動例	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 授業の取り組み・提出物の記入状況	○	○	○	2
							合計
							70